

牛久：学校周辺に見る自然

第57号 ひたち野うしく小（ひたち野西近隣公園）

2011年11月30日発行

＜秋の水辺公園、生きものたちの冬越し準備 ～7. とんぼ、バッタ、カマキリの場合＞

11/8、ひたち野うしく小4年生との水辺公園、秋の生きもの観察。今回は、虫たちの冬越しから、とんぼ、バッタ、カマキリの仲間について。



昨年の同時期には、3種類の赤とんぼが見られましたが（22年度44号参考）、この日は写真のアキアカネだけでした。とんぼの仲間は、大部分が幼虫（ヤゴ）で越冬しますが、赤とんぼの仲間（アカネ類）とアオイトトンボ（22年度34号参考）は卵で冬を越します。中には、ホソミオツネイトンボ（22年度54号参考）のように成虫で越冬するものもありますが、これも含め、日本では3種しか知られていません。
←はねを休めるアキアカネ。卵で越冬する。



↑ 左から、オンプバッタ（上の小さいのがオス）、ヒシバッタ（はねが短く飛べない）、ツチイナゴ（成虫越冬）。

バッタの仲間は、ほとんどが卵で越冬するようです。写真のオンプバッタもそう。オンプバッタは、おんぶしてもらっている小さい方がオスです。ヒシバッタはとても小さくて、体長1 cm くらいにしかならず、はねも短いので飛ぶことができません。それで、地上に生えている藻類を食べているそうです。バッタの成虫は、ふつう冬までに死んでしまいますが、写真のツチイナゴやヒシバッタは成虫で冬を越すことが知られています。



カマキリの仲間も、卵で越冬します。肉食なので、えさの少ない冬は、成虫のままで越すのは厳しいのでしょうか。今回見つけたのは、オオカマキリ（左）とハラビロカマキリ（右）の卵鞘（らんしょう：卵のうとも呼ばれ、寒さや衝撃から卵を保護する。）【理科支援員 宮内】

↑ オオカマキリの卵のう（左：写真に撮れなかったため、これは4/20撮影の写真）とハラビロカマキリの卵のう（右）。